

(株)栗林商会
日石事業部 係長
大野 敏明

おはようございます。

私は石油連盟第5号・北海道基地で油濁防除資機材のメンテナンスを担当しています、(株)栗林商会の大野と申します。

昨年12月に実施されたサウジアラムコ・アラビア石油・石油連盟合同訓練に参加しました感想及び反省点について、簡単に述べさせていただきます。

はじめに、私の中でのサウジアラビアは、イスラム教の聖地と原油産油大国及び1991年の湾岸戦争における油濁処理で大きな力を発揮した国としてのイメージがあり、どのような油濁防除資機材を保有し、訓練を行っているのか大変興味があると共に、油濁防除システムの世界的レベルを間近で見ることができる今回の訓練は大変意義のあることと考え参加いたしました。

まず、合同訓練全体の感想としては、対策本部が設置されると同時に国家レベルで専門家が結集し情報交換が行われる等、対応の早さに驚くと共に、現実的なシナリオに基づきリアルタイムで実際の資機材・船舶・航空機を使用して行われる様子に、国内訓練との行動力・機動力の差を改めて感じたのは私だけではないと思います。

特に、航空機を使った油処理剤の空中散布デモンストレーションは圧巻で、技術の高さを垣間見ることができました。

さて、訓練における私達合同チームの役割はコマンダーからの指示によりオイルブームのJ字展張を任されており、オイル溜まりを形成したところに油回収機を投入する作戦でした。

残念ながら、当日は強風のため対策本部より海面監視業務に変更との指示になりましたが、訓練全体ではカフジ基地からの資機材輸送に始まり、油処理剤散布まで訓練は成功裡に終わり、当初の目的は達成できることができました。

翌日、サウジアラムコの御好意により、前日行うことのできなかつたオイルブームの展張を行うことができましたが、前日と変わらず風が強く展張は困難を極めると共に、日本人作業者と現地人作業者間で十分なコミュニケーションが取れない等、合同訓練の難しさも知る結果となりました。

これは、今回の訓練の反省でもあり、今後の合同訓練の課題でもあると考えます。

コミュニケーションが上手く取れないために、迅速な対応ができなかったことは、とてももどかしく、残念でした。

特に荒天時は、ブーム展張時にハブニングが起きやすく、リーダーは速断力を求められます。また、現場サイドもコミュニケーションを取りながらの作業となるため、チームワークが乱れることは重大ミスに繋がる恐れがあります。

このようなチームワークの乱れは国内基地の訓練初期にも言えたことですが、対応策としては、より多くの訓練に積極的に参加し、信頼関係を築くことで解決してきました。

次回からの海外合同訓練方法の提案として、与えられた資機材を展開及び展張するのではなく、資機材の設置から積極的に参加して、作業担当者間のチームワーク作りやコミュニケーションの場を増やす方法等が必要と考えます。

合同訓練に初めて参加してこのような課題も残り、私達チームにとっても満足のいくアピールはできませんでしたが、サウジアラムコの油濁防除レベルの高さを見られたことは大変参考になり、次に繋がる一歩を踏み出すことができると自負しています。

今後、この絆を深めるためにも国内基地全体のレベルアップを行い、人材育成に努力しなければならないと考えています。

最後になりますが、今回の訓練にあたりサウジアラムコ・アラビア石油・石油連盟の皆様大変お世話になりましたこと、国内基地を代表しお礼申し上げます。

これらの経験を生かすべく、微力ながらお役に立てるよう努力いたします。

ありがとうございました。